

## 6章 環境の取り組みに対する県民の評価

### 1 三重県が低炭素社会実現に向けて取り組んでいることに関するアンケート

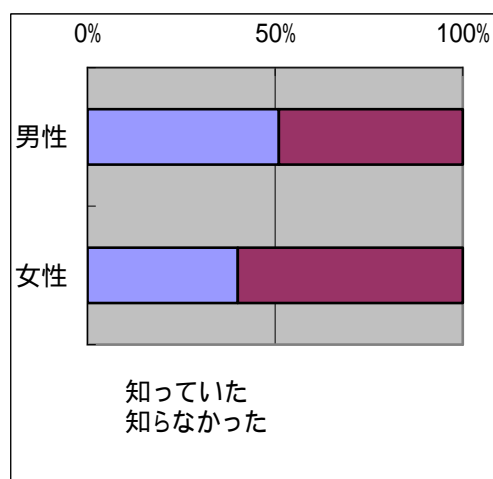
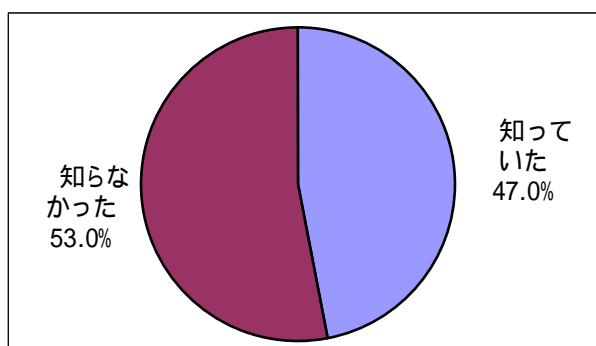
環境の取り組みに対する県民評価アンケートを三重県内で実施し、参考に岐阜県・愛知県にも同様のアンケートを実施した。

これらアンケートに基づき、三重県内の住民意識の分析を、アンケート内の設問に基づき、分析を行った。

#### 1. 三重県は毎年「環境白書」を刊行しています。そのことをご存知でしたか？

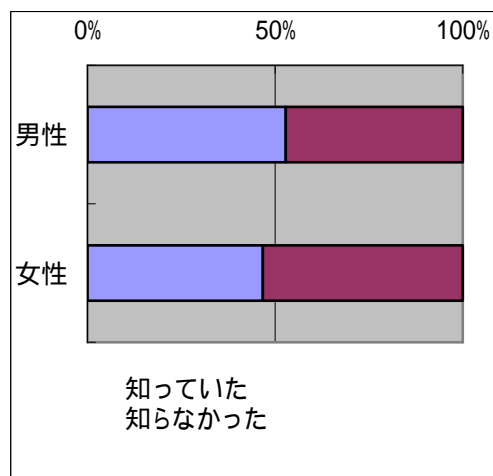
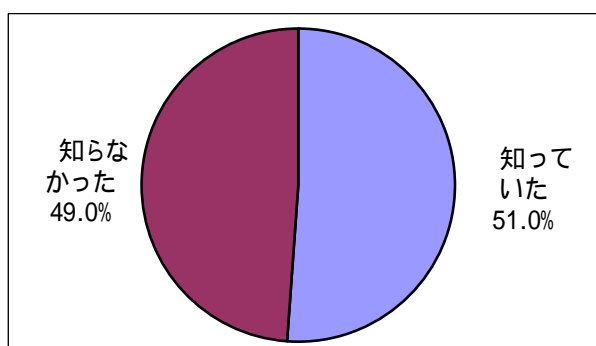
##### 【三重県全域 調査データ】

	男性	女性	合計
知っていた	49	22	71
知らなかった	47	33	80



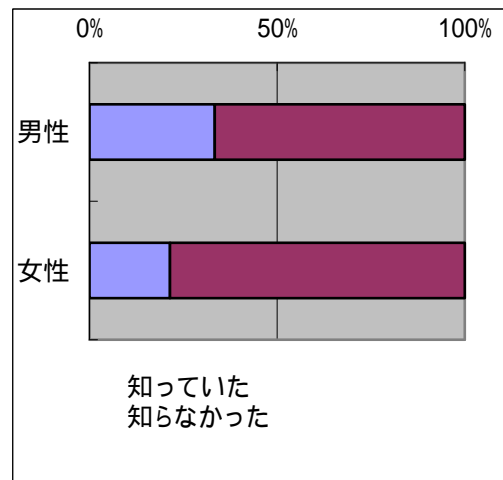
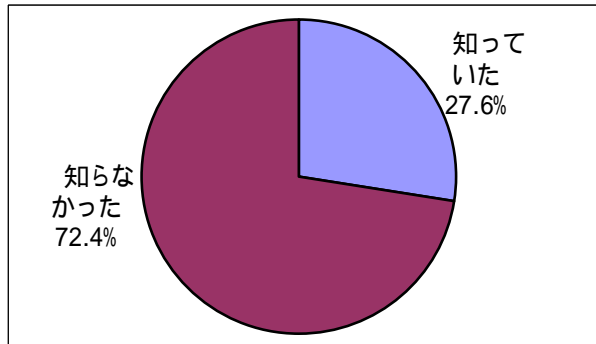
##### 【北勢地区 調査データ】

	男性	女性	合計
知っていた	38	14	52
知らなかった	34	16	50



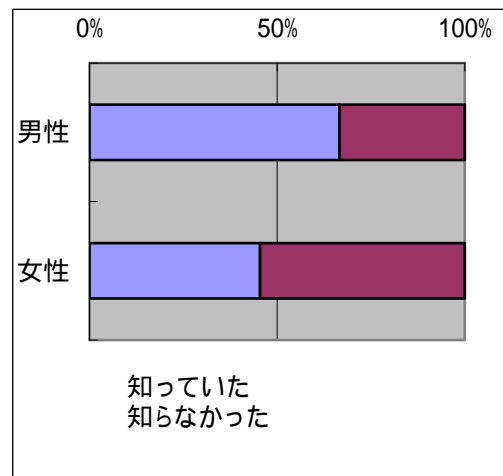
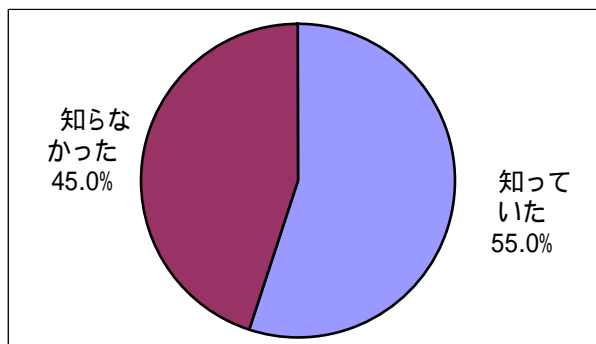
【南勢地区 調査データ】

	男性	女性	合計
知っていた	5	3	8
知らなかった	10	11	21



【伊賀地区 調査データ】

	男性	女性	合計
知っていた	6	5	11
知らなかった	3	6	9



【分析】

北勢地方・南勢地方・伊賀地方の全域では、

47%の人が「知っていた」と答えているので、「知っていた」「知らない」が大よそ半々である。

「知っている」の内訳は5（男性）：4（女性）で男性が概ね関心をよせている。

北勢地方では、

「知っていた」「知らなかった」が大よそ半々であった。

内訳は、男性の方が半数を上回り、女性は「知らなかった」が半数を下回った。

### 南勢地方は、

約4分の1の人が「知っていた」に止まり、大半が「知らなかった」と答えている。

「知っていた」が男性を多少上回り、女性は更に下回って5分の1程度で非常に少ない。

### 伊賀地方は、

「知っていた」が半数を超え、「知らなかった」が半数以下となった。

「知っていた」が、アンケート記入人数は少ないものの環境問題に関心のある人が多い。

### 北勢地方・南勢地方・伊賀地方の全域を円グラフで見ると、

北勢地方・伊賀地方は、半数以上が「知っていた」となり、南勢地方が約4分の1程度と低いものとなった。

### 全体を見ると、

北勢地方は、四日市で公害問題を経験し、桑名市はごみ問題(RDF)、いなべ市は、学校などの環境問題の取組みの歴史は古く「環境白書」に反映しているのではと思われる。

また、伊賀地方においても、リサイクル・ごみの問題あるいは水環境および自然環境に熱心に取り組んでいる。

一方、南勢地方においてもごみ問題(観光地が多いため県下でごみの排出量が多い)に熱心に取り組む人たちは多いが「環境白書」を「知っていた」には反映されていない。

### 職業別の内訳では、

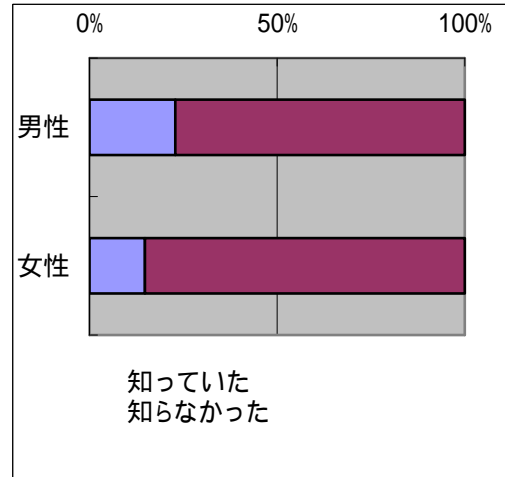
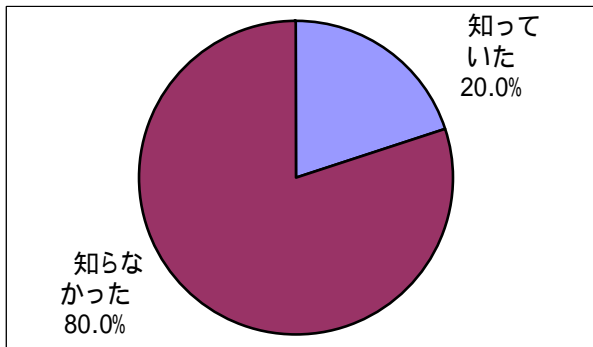
公務員は当然と言えるが全員が「知っていた」となった。北勢地方と南勢地方にアンケート記入者に公務員が多く、伊賀地方がその約半数以下であるにも関わらず、「知っていた」の割合が一番多い。

環境団体が南勢地方は0団体であり、北勢地方に3団体に所属、伊賀地方は2団体であり、当然「知っていた」に反映された。

2. 2000年度に「三重県新エネルギービジョン」が策定されました。そのことをご存知でしたか？

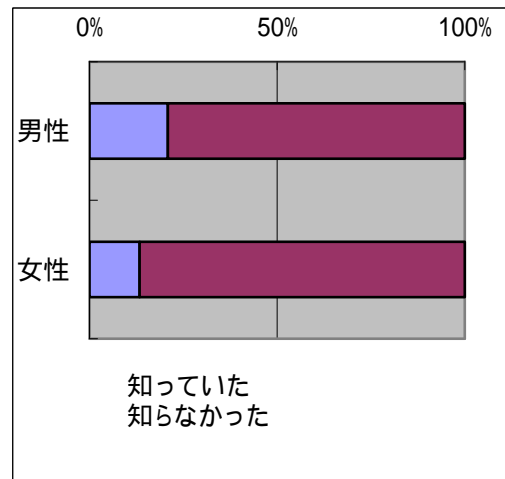
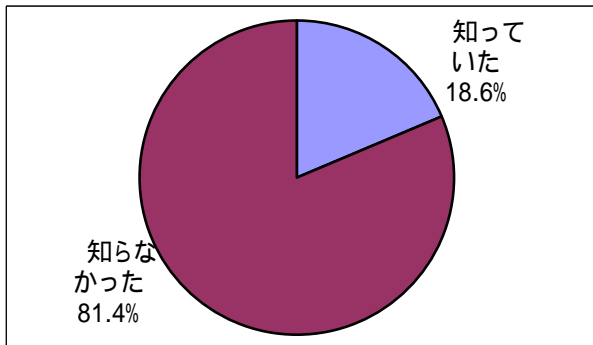
【三重県全域 調査データ】

	男性	女性	合計
知っていた	22	8	30
知らなかった	74	46	120



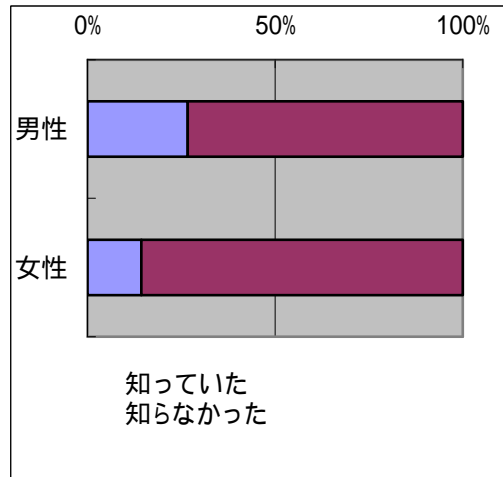
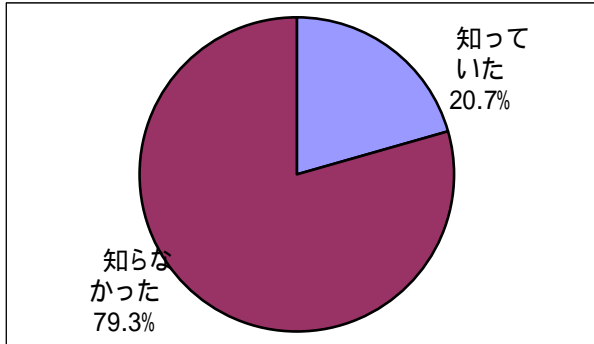
【北勢地区 調査データ】

	男性	女性	合計
知っていた	15	4	19
知らなかった	57	26	83



【南勢地区 調査データ】

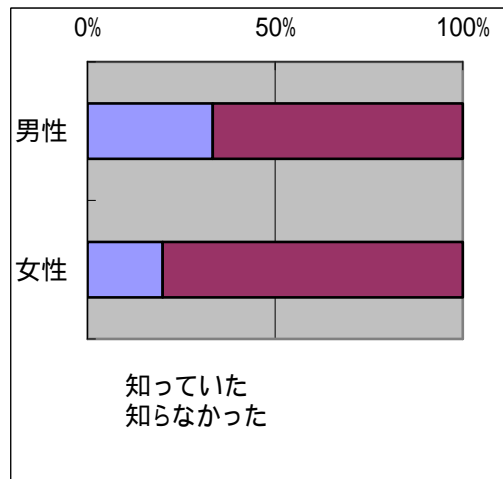
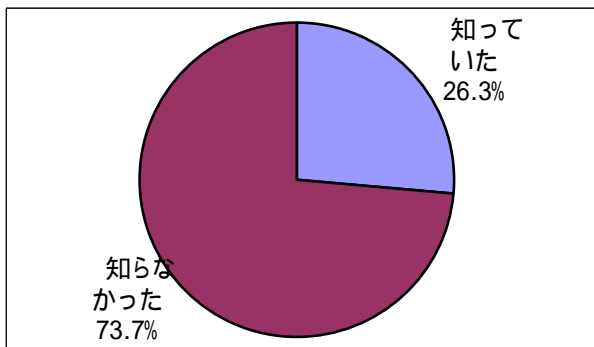
	男性	女性	合計
知っていた	4	2	6
知らなかった	11	12	23



【伊賀地区 調査データ】

【伊賀地区】

	男性	女性	合計
知っていた	3	2	5
知らなかった	6	8	14



【分析】

**北勢地方・南勢町・伊賀地方の全域では、**

「新エネルギービジョンの策定」については、80%の人が「知らなかった」と大幅に知られていない。

「知っていた」が20%で「環境白書」より更には知られてない結果となった。内訳を見ると、北勢地方が18.6%、南勢地方が20.7%、伊賀地方が26.3%、が「知っていた」となり、「環境白書」の「知っていた」の順位の逆で、伊賀地方

が他の地方の方が高い結果が出た。

しかし、各地方において、いずれも「知らなかった」が大よそ 8 割を超えて知られていない。

#### **男女比の内訳をみると、**

男性の方が女性より「知らなかった」が高い結果となった。

#### **職業別の内訳をみると、**

公務員においても数名が、「新エネルギービジョン策定」の内容を知られていないもので、大変低い結果となった。

3. 「三重県新エネルギービジョン」が策定された時に比べて、2007年末の導入量および2010年末導入目標が次のように記載されています。

	新エネルギービジョン策定時	2007年度末導入量	2010年度末導入目標
太陽光発電	1,046 kW	34,842 kW	75,000 kW
風力発電	3,000 kW	34,067 kW	102,000 kW
バイオマス発電	-	1,460 kW	6,000 kW
バイオマス熱利用	-	14,104 kl	19,000 kl
コジェネレーション	186,438 kW	397,568 kW	434,000 kW
内、燃料電池	1,000 kW	1,031 kW	50,000 kW
クリーンエネルギー自動車	378台	5,300 台	22,000 台
廃棄物発電	30,000 kW	43,090 kW	43,000 kW
従来型一次エネルギーの削減量合計(原油換算)	102,379 kl	229,908 kl	310,000 kl
CO2排出削減量	約16万トンCO2	約37万トンCO2	約50万トンCO2

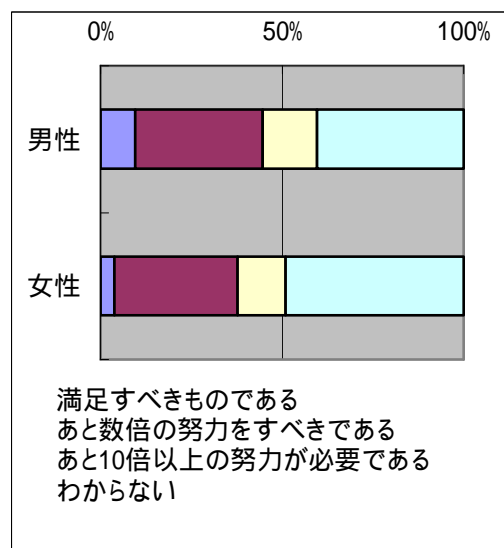
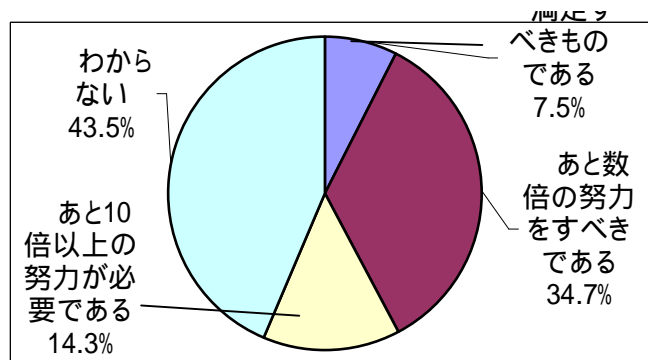
他方、三重県での2006年度の二酸化炭素排出量は2,756万トンCO2でした。

上記の37万トンはこの1.3%に相当します。

このことから、三重県における低炭素社会形成への努力は満足できるものと言えますか？

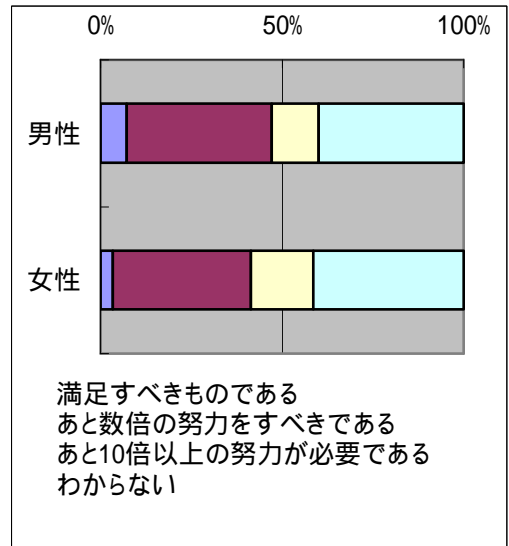
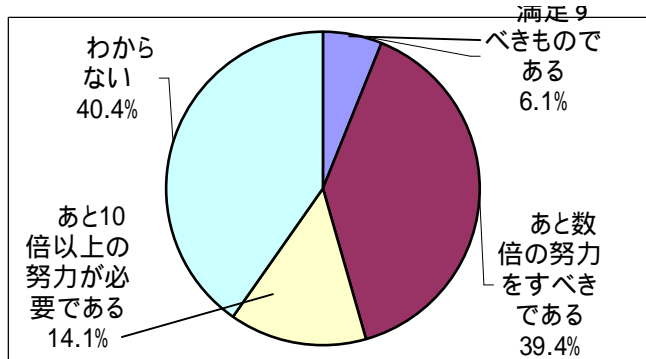
【三重県全域 調査データ】

	男性	女性	合計
満足すべきものである	9	2	11
あと数倍の努力をすべきである	33	18	51
あと10倍以上の努力が必要である	14	7	21
わからない	38	26	64



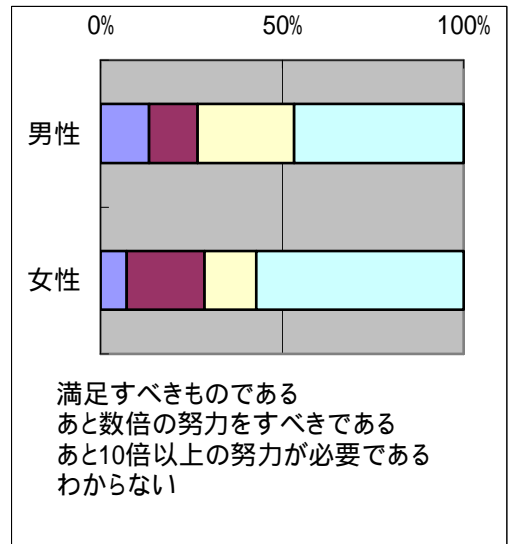
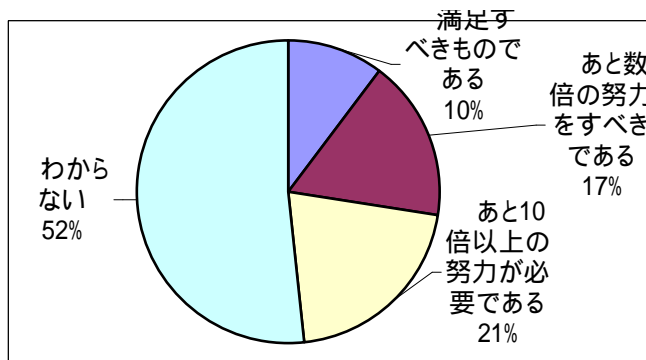
【北勢地区 調査データ】

	男性	女性	合計
満足すべきものである	5	1	6
あと数倍の努力をすべきである	28	11	39
あと10倍以上の努力が必要である	9	5	14
わからない	28	12	40



【南勢地区 調査データ】

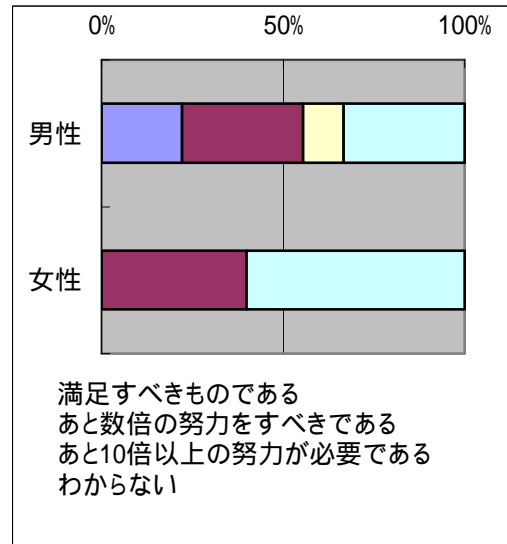
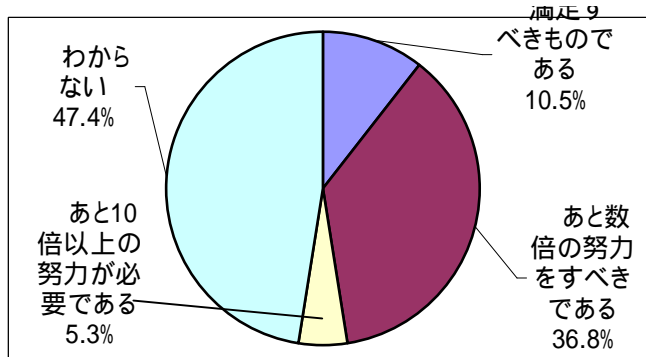
	男性	女性	合計
満足すべきものである	2	1	3
あと数倍の努力をすべきである	2	3	5
あと10倍以上の努力が必要である	4	2	6
わからない	7	8	15





【伊賀地区 調査データ】

	男性	女性	合計
満足すべきものである	2	0	2
あと数倍の努力をすべきである	3	4	7
あと10倍以上の努力が必要である	1	0	1
わからない	3	6	9



【分析】

北勢地方・南勢地方・伊賀地方の全域では、

- 「わからない」が全体の 43.5%、となり約半数の人が「わからない」と答えている。
- 2 番目の「あと数倍の努力をすべきである」34.7%で「わからない」より約 1 割少なくなった。
- 3 番目の「あと 10 倍以上の努力が必要である」は 14.3%で、一番少ない「満足すべきである」7.5%となった。

地方別の内訳をみると、

北勢地方では、

「あと数倍の努力をすべきである」39.4%と「わからない」の 40.4%の約同等の数値を占めている。

南勢地方は、

概ね「わからない」が 52%と半数を超えた。

「あと数倍の努力をすべきである」と「あと 10 倍以上の努力が必要である」は、ほぼ同数である。

伊賀地方は、

「わからない」が約 47%となり、約 37%が「数倍の努力をすべきである」

また、他の地方と違う点は、「満足すべきである」が「あと数倍の努力をすべきで

ある」の方より高い数値となった。

### 男女比の内訳をみると、

北勢地方・南勢地方・伊賀地方共に、「わからない」は、男性より女性の方が多くを示している。

北勢地方と伊賀地方は、概ね円グラフに違いはなく、考え方が同様なことが解る。

しかし、南勢地区においては、「満足すべき」が10%と、北勢地方や伊賀地方に比べて多い。

その反面、「わからない」は、北勢地方と伊賀地方より、10%以上も多くなった。

### 三重県の大半を示した「わからない」をどうみればよいのか。

数値（策定時・2007年導入量・2010年導入目標）だけで各新エネルギーの導入面が実感として解らないのか、あるいは技術面、設置場所、変換効率、コスト面など各新エネルギーについても直接的に把握できない状況などの具体的に解らないことが反映しているのであろうか。

低炭素社会形成に「新エネルギービジョン」の導入策定が、県民レベルで単に「わからない」ものと考えてよいのか。

2007年の導入量37万トンに対して、1.3%という数値で、低炭素社会形成は、無理で「わからない」となったのか。

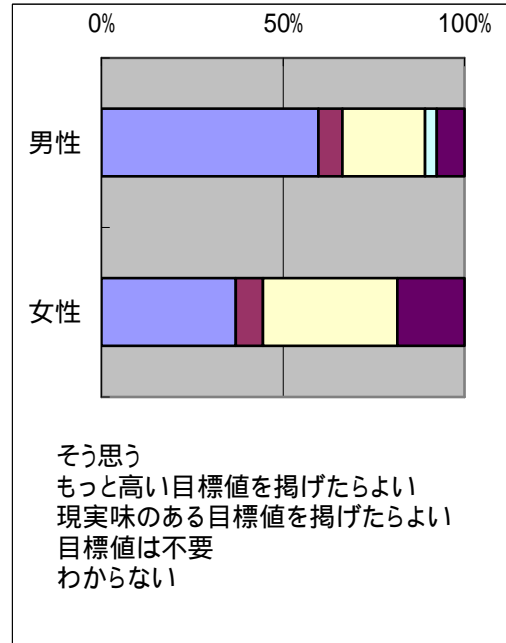
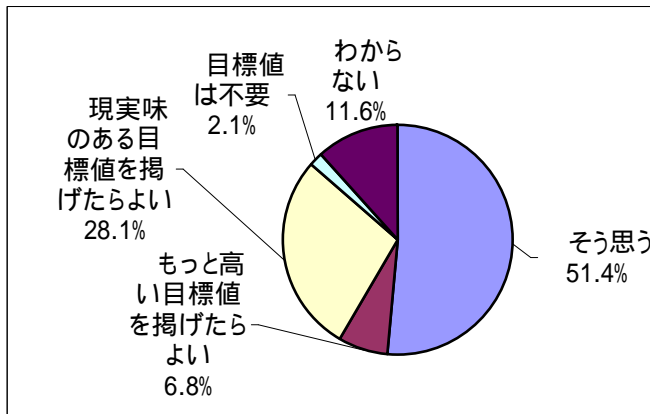
「あと数倍の努力をすべきである」が34.7%は、の1.3%だからこそ、「あと数倍の努力をすべきである」と判断しているのか。

行政においても「環境白書」どのように、県民に対して「新エネルギーのビジョン」の啓発・推進を更に努力をお願いしたい。

4. 民主党政権になって、「1990年を基準にして2020年までに温室効果ガス排出量を25%削減する」という中期目標が掲げられました...  
三重県でもこの中期目標と同程度の目標を掲げたらよいとお考えになりますか？

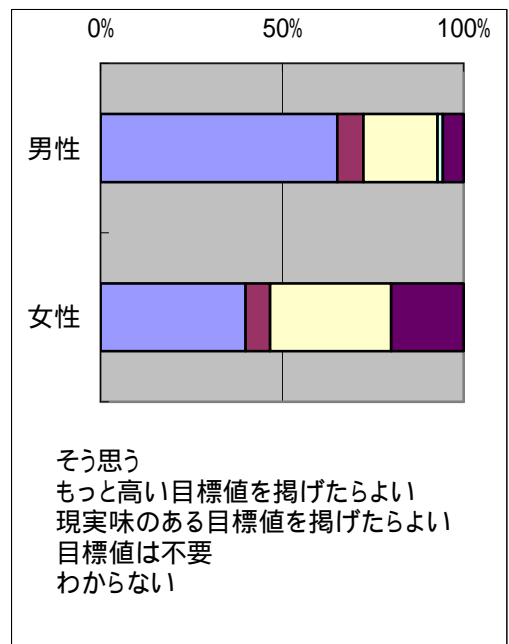
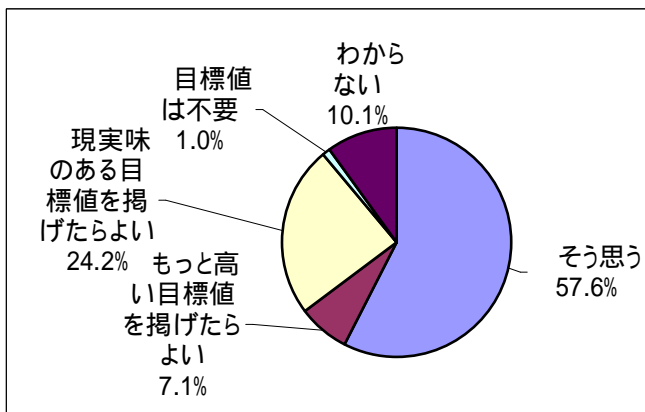
【三重県全域 調査データ】

	男性	女性	合計
そう思う	55	20	75
もっと高い目標値を掲げたらよい	6	4	10
現実味のある目標値を掲げたらよい	21	20	41
目標値は不要	3	0	3
わからない	7	10	17



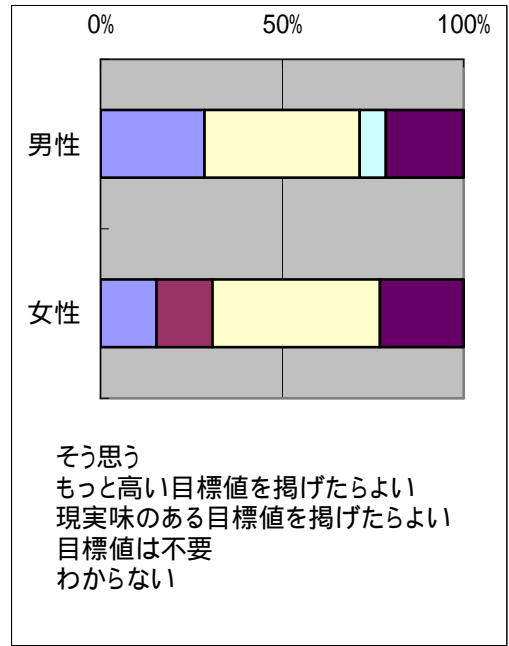
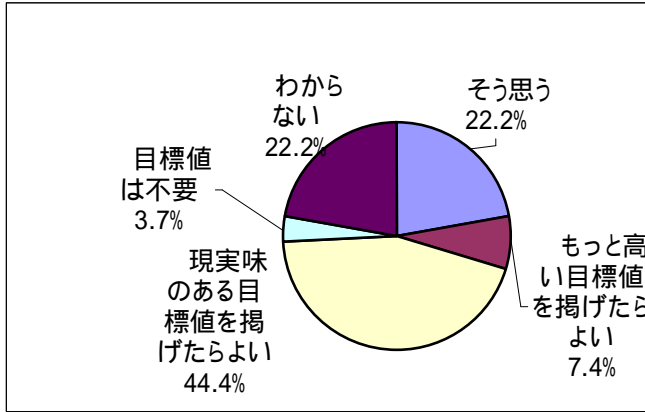
【北勢地区 調査データ】

	男性	女性	合計
そう思う	45	12	57
もっと高い目標値を掲げたらよい	5	2	7
現実味のある目標値を掲げたらよい	14	10	24
目標値は不要	1	0	1
わからない	4	6	10



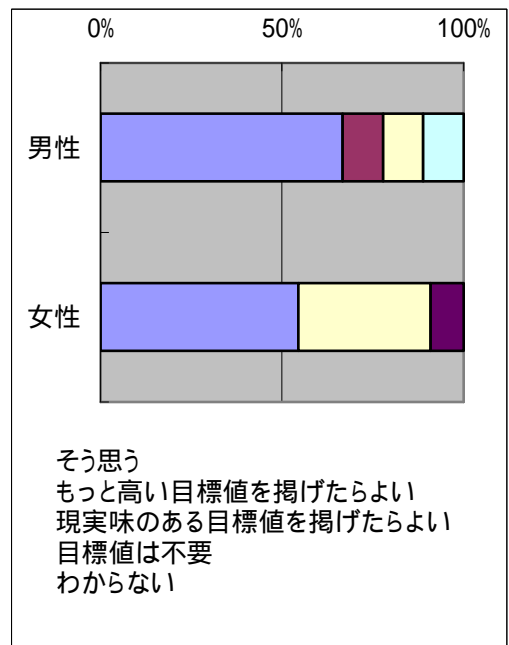
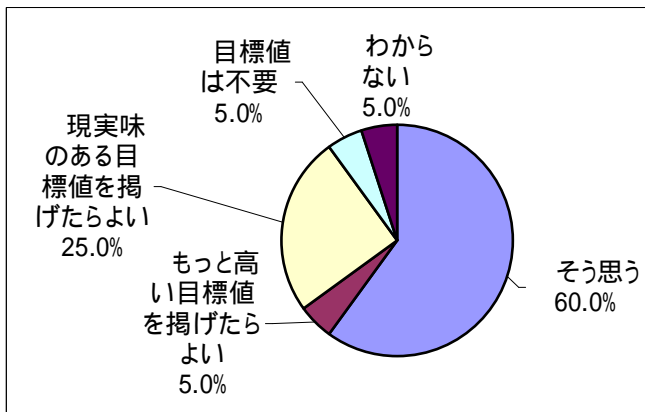
【南勢地区 調査データ】

	男性	女性	合計
そう思う	4	2	6
もっと高い目標値を掲げたらよい	0	2	2
現実味のある目標値を掲げたらよい	6	6	12
目標値は不要	1	0	1
わからない	3	3	6



【伊賀地区 調査データ】

	男性	女性	合計
そう思う	6	6	12
もっと高い目標値を掲げたらよい	1	0	1
現実味のある目標値を掲げたらよい	1	4	5
目標値は不要	1	0	1
わからない	0	1	1



## 【分析】

### 北勢地方・南勢地方・伊賀地方の全域では、

「そう思う」が全体の半数以上の51.4%と答えている。

「現実味のある目標値を掲げたらよい」が24.2%で、「そう思う」が約半数の2番目である。

「わからない」が11.6%、「もっと高い目標値を掲げたら良い」6.8%「目標値は不要」はもっとも低く2.1%となった。

### 全域の男女比でみると、

「そう思う」が、男性が多く60%で、女性はその半数となった。

しかし、「現実味のある目標値を掲げたらよい」は、女性の方が多くなった。

「もっと高い目標値を掲げたら良い」は、男女共に割合は概ね同等である。

「わからない」は、女性の方が男性の半数多い。

「目標値は不要」は、男性のみが答えている。

### 地方別の内訳を見ると、

北勢地方は、「そう思う」が57.6%で内訳をみると、男性の方が女性より半数以上が「そう思う」が多く、反面「現実味のある目標値を掲げたらよい」および「わからない」は女性の方が多く答えている。

南勢地方は、「どう思う」22.2%より、「現実味のある目標値を掲げたらよい」44.4%と倍の数値となった。

また、「そう思う」と「わからない」が22.2%と同数となった。

男女比は、「そう思う」は、男性の方が多くが、「現実味がある目標値を掲げたらよい」は男女比が同等となった。

伊賀地方は、「そう思う」が60%と高く、「現実味がある目標値を掲げたら良い」は、25%で、「わからない」が低い。

北勢地方、伊賀地方とも半数以上が「そう思う」となったが、南勢地方のみ22.2%と低い結果となった。

同じく「現実味がある目標値を掲げたらよい」は、北勢地方と伊賀地方が約25%となり、南勢地方はそれよりも約20%高い数値となった。

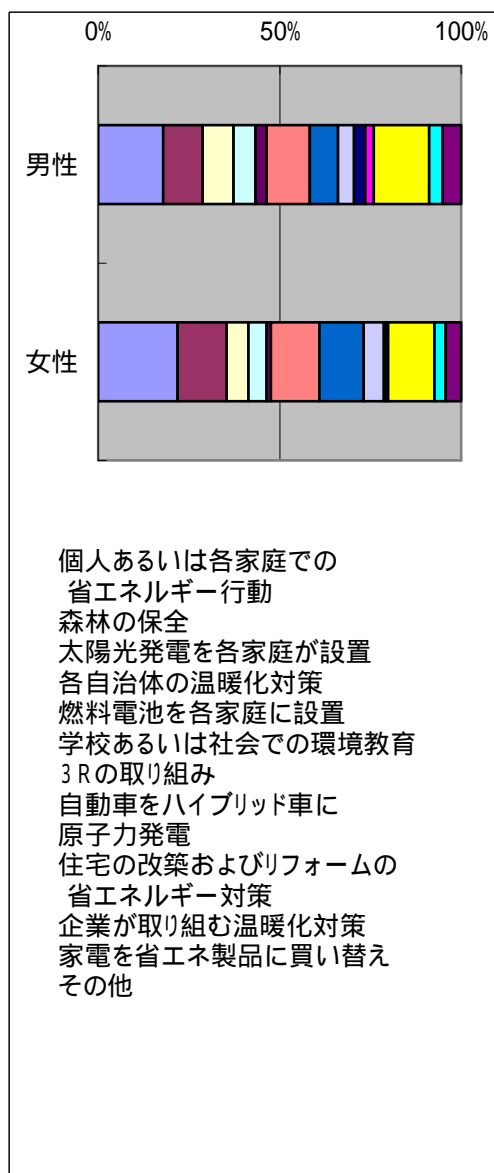
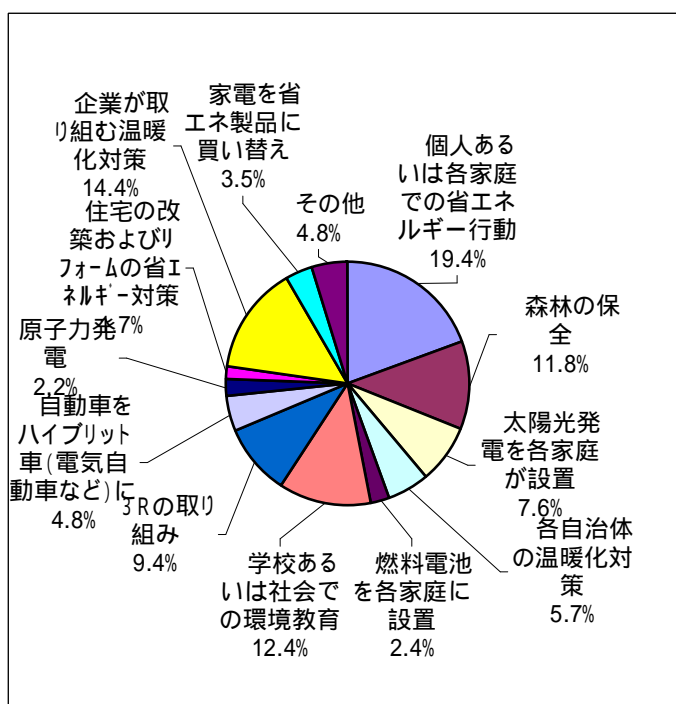
北勢地方と伊賀地方の質問項目の円グラフは、ほぼ同様の形であるが、南勢地方については地域特性であろうか、円グラフに違いが出るものとなった。

二酸化炭素25%削減に、三重県も同等の数値目標を挙げたらよいという結果になったが、具体的な手法を示す必要があるが、次の問い5 .に反映するものと思う。

## 5. 温暖化対策で、特に期待できることは何だと思われますか？

【三重県全域 調査データ】

	男性	女性	合計
個人あるいは各家庭での省エネルギー行動	53	36	89
森林の保全	32	22	54
太陽光発電を各家庭が設置	25	10	35
各自治体の温暖化対策	18	8	26
燃料電池を各家庭に設置	9	2	11
学校あるいは社会での環境教育	35	22	57
3Rの取り組み	23	20	43
自動車ハイブリッド車(電気自動車など)	13	9	22
原子力発電	9	1	10
住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策	7	1	8
企業が取り組む温暖化対策	45	21	66
家電を省エネ製品に買い替え	11	5	16
その他	15	7	22



### 【分析】

「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」が、約5分の1を示しており、民生に係る分野で大きく環境負荷を与えていて、家庭での省エネルギーの推進が必要と認識されている。

次に、「企業が取り組み温暖化対策」「学校あるいは社会での環境教育」と続き、と併せて、社会全体で取組まなければならないという結果・意識の表れたものと言える。

家庭・企業・学校での取組みが、全体で4割を超える結果となった。

一方、なかなか現実的に「各自治体の温暖化対策」は5.7%と少なく、自治体単位で行うことは難しいことが伺える、自治体との連携を考えることも必要ではないか。社会全体で行うとなると是非参画を願いたい。

三重県は、県土面積の65%の森林を保有しており、「森林の保全」も多くの役割を果たす供給源として必要と示している。

また、具体的に家庭に導入する「燃料電池を各家庭に設置」「家電を省エネ製品に買い替え」については、温暖化対策に結びつく関心が低い、現実的な意見と受け止める。

一方、具体的に家庭に導入する「太陽光発電を各家庭に設置」や「自動車をハイブリット車」においても、上記より関心が高い。

国や自治体の「太陽光発電導入」の補助金を支援する「しくみ」や「メリット」が大きく反映しているのか。

男女比の「ベスト3位」までと「ワースト3位」までをみると、

ベスト：1位～3位

(男性) 1位……………「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」

2位……………「企業が取り組む温暖化対策」

3位……………「学校あるいは社会での環境教育」

(女性) 1位……………「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」

2位～3位…「森林の保全」「学校あるいは社会での環境教育」

ここまで、「温暖化対策で期待できる質問項目」の答えについて「岐阜県」と全く同じ結果となり、愛知県においてもほぼ同じ結果となった。

ワースト：1位～3位

(男性) 1位……………「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」

2位～3位…「燃料電池を各家庭に設置」

…「原子力発電」

(女性) 1位～2位…「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」

…「原子力発電」

3位……………「燃料電池を各家庭に設置」

ベスト項目の内訳をみると、

「森林保全」を女性が掲げ、男性は「企業が取り組む温暖化対策」との違いがあるものの他については同じとなった。

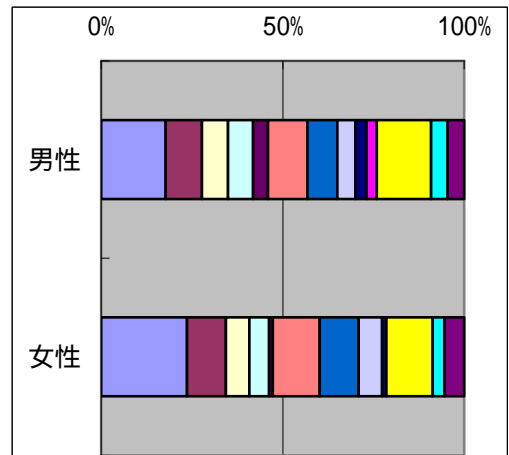
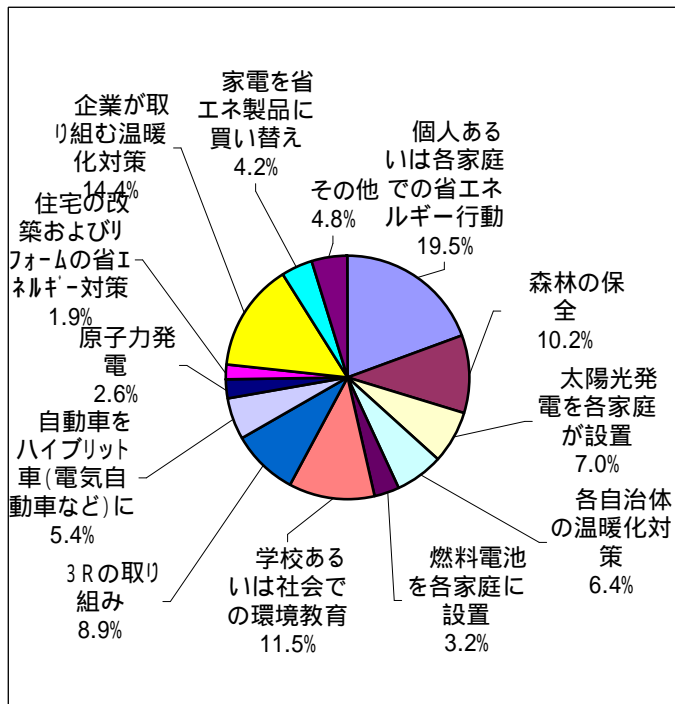
ワースト項目の内訳をみると、

順位は違うものの、男性・女性共に同じ項目となった。

従って、三重県全域の地域社会において、「省エネルギー行動」を促し、酸素の供給源である「森林保全」を行うことが「最優先」である。を表したものである。

【北勢地区 調査データ】

	男性	女性	合計
個人あるいは各家庭での省エネルギー行動	39	22	61
森林の保全	22	10	32
太陽光発電を各家庭が設置	16	6	22
各自治体の温暖化対策	15	5	20
燃料電池を各家庭に設置	9	1	10
学校あるいは社会での環境教育	24	12	36
3Rの取り組み	18	10	28
自動車をハイブリッド車(電気自動車など)	11	6	17
原子力発電	7	1	8
住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策	6	0	6
企業が取り組む温暖化対策	33	12	45
家電を省エネ製品に買い替え	10	3	13
その他	10	5	15



個人あるいは各家庭での省エネルギー行動  
 森林の保全  
 太陽光発電を各家庭が設置  
 各自治体の温暖化対策  
 燃料電池を各家庭に設置  
 学校あるいは社会での環境教育  
 3Rの取り組み  
 自動車をハイブリッド車に  
 原子力発電  
 住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策  
 企業が取り組む温暖化対策  
 家電を省エネ製品に買い替え  
 その他

その他 記入詳細(北勢地区)

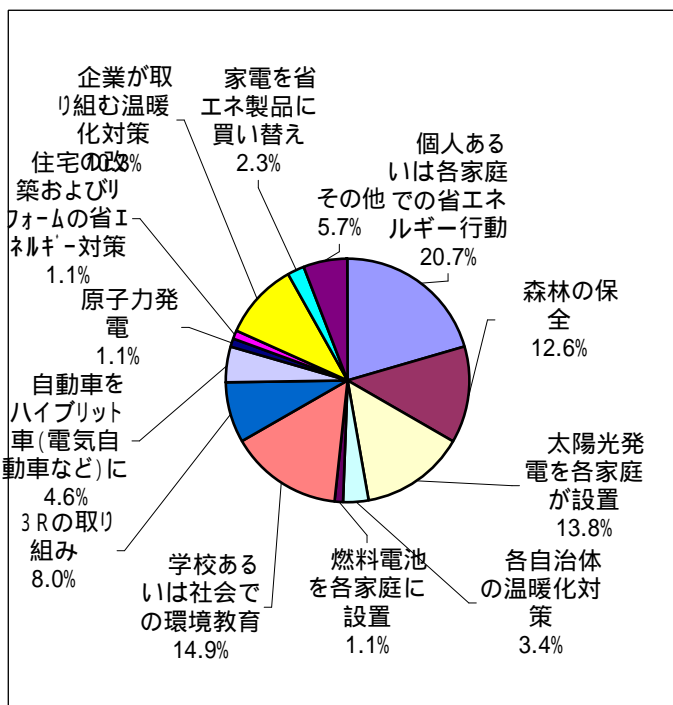
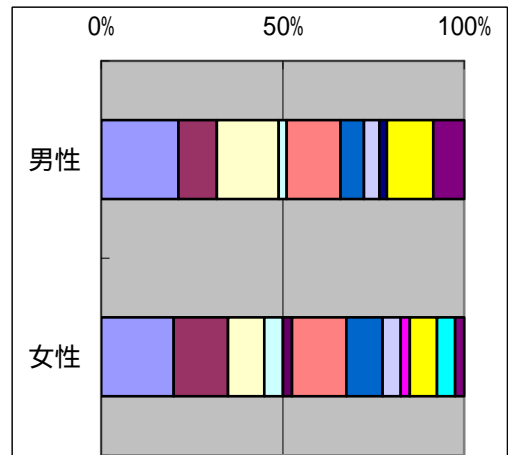
- 公共交通の利便性向上と歩きやすい自転車にやさしい町作り.....(20歳代女性)
- 個人の意識が一番大切。.....(20歳代女性)
- 政界と産業界がもっと連携を深める必要がある。.....(30歳代男性)
- 一人一人の省エネ活動が推奨される(ご褒美がもらえる インセンティブ)のような制度について今後、行政、企業等が進めていく事が大切である。.(40歳代男性)
- M - E M S、I S Oなどの取得費用の助成.....(40歳代男性)



- まずは、家庭から省エネを始め、地域、学校、職場とだんだん広げていく活動が簡単であるが、一番有効だと思う。  
特に環境教育は大切だと思う。 .....(40 歳代女性)
- 学校発信型の温暖化対策 学校教育で地球温暖化に取り組み、それを各家庭で広めていく。 .....(50 歳代男性)
- 中国湖南省では、「小手拉大手」という合言葉ですでに実行されている。(50 歳代男性)
- 国内にくまなく広がっている学校が地球温暖化に関する環境教育に取り組みれば最も最低コストで全国に広まるのでは無いか。(50 歳代男性)
- 不便な生活に戻ろう。 .....(50 歳代男性)
- 2010 年末導入目標に比べ新エネルギービジョンでも非常に近い目標数値である。温暖化対策は既存の対象と方法を徹底する教育やPR活動で予算投入を抑える一方、燃料電池の実用化に向けた開発に予算を投入し、諸外国からとれるようにすると多方面に良い効果が及ぶ。 .....(50 歳代男性)
- 何と言っても「環境税」の導入でしょう。市場メカニズムの中で企業も個人も否応なく自主的に省エネに取り組むようにする。  
政策としては公共交通機関の充実でしょう。原資はガソリンと軽油にかけた環境税でまかなうとよいでしょう。そして幅に余裕のある市街地内の道路は車線を1~2本つぶし、路面電車の線路と歩道の  
拡充にあてると良いと思う。 .....(50 歳代男性)
- 個人が便利な物に頼りすぎない生活を日々、心がけること。 .....(50 歳代女性)
- 多くのCO<sub>2</sub>排出をしている産業界のさらなる努力を期待したい。  
今度森林吸収が減っている現状でやはり森林整備にもっと力を入れて、国がしっかりとした政策を立てて実行して頂きたい。 .....(50 歳代女性)
- 自動車利用から自転車利用への転換(可能な限り)。 .....(60 歳代男性)
- 無駄な電気利用の削減 例建物の自動ドアの廃止、自動点滅照明の各家庭等への導入。 .....(60 歳代男性)
- ゴミの削減、エコ活動、企業の努力 .....(60 歳代男性)
- 各家庭への積極的な取り組み、指導および助成が必要。 .....(70 歳以降男性)
- メガソーラーの設置(中電武豊で計画中、11年度稼働予定7000kw/h)の様なもの。即ち電源のエコ化を計る。  
技術的には電源構成比約10%までは可能と言われている。  
(NEDO)その為のスマートグリッドや充電池の開発を推進する。(70 歳以降男性)
- 使わない.....(70 歳以降男性)

【南勢地区 調査データ】

	男性	女性	合計
個人あるいは各家庭での省エネルギー行動	10	8	18
森林の保全	5	6	11
太陽光発電を各家庭が設置	8	4	12
各自治体の温暖化対策	1	2	3
燃料電池を各家庭に設置	0	1	1
学校あるいは社会での環境教育	7	6	13
3Rの取り組み	3	4	7
自動車をハイブリット車(電気自動車など)	2	2	4
原子力発電	1	0	1
住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策	0	1	1
企業が取り組む温暖化対策	6	3	9
家電を省エネ製品に買い替え	0	2	2
その他	4	1	5



個人あるいは各家庭での省エネルギー行動  
 森林の保全  
 太陽光発電を各家庭が設置  
 各自治体の温暖化対策  
 燃料電池を各家庭に設置  
 学校あるいは社会での環境教育  
 3Rの取り組み  
 自動車をハイブリット車に  
 原子力発電  
 住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策  
 企業が取り組む温暖化対策  
 家電を省エネ製品に買い替え  
 その他

その他 記入詳細(南勢地区)

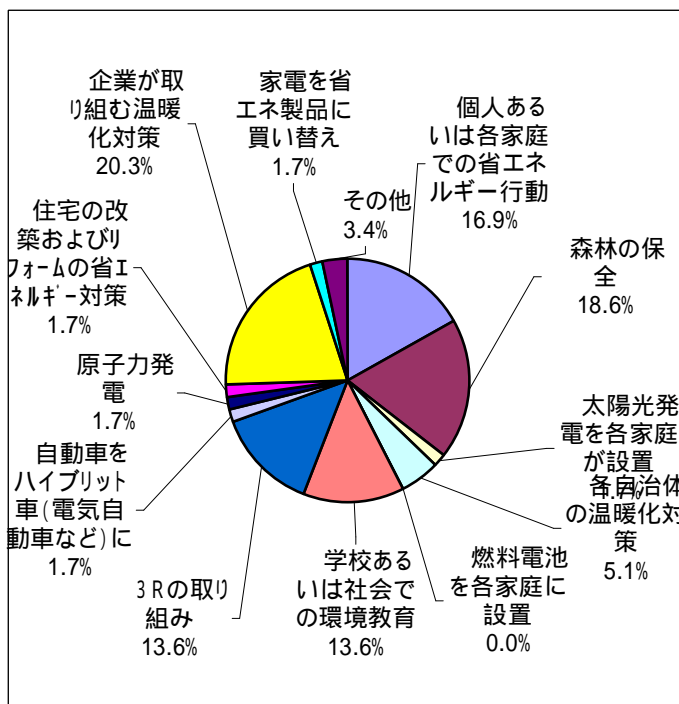
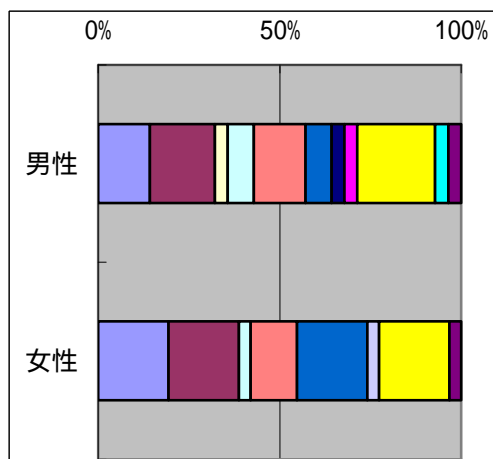
- 大規模な施設から省エネ診断を実施していき、その結果を踏まえて検討していく。実施していく。順番は省エネ 創エネ カーボンオフセット。特に省エネについては、「現在、在る物を出来る限り有効利用するにはどうしたらよいか」と徹底的に検討し、いたずらに創エネに走らない。.....(40歳代男性)
- 鳩山政権はCO2削減25%という目標を世界に向けて発表しましたが、総理自身が自分の生活において、実現できるか否かを真に考え、日本国民、企業が十分に達成できるものと考えているのでしょうか？ 私達のような田舎で生活する者は自動車絶対であるため、ハイブリット車に買い換えするなどする事によって、

大幅なCO<sub>2</sub>削減ができますが、都市の生活によってはそんな単純なものではない  
と思うのですが。.....(40歳代男性)

- 印の他に4、6の対策が重要だと思う。.....(50歳代男性)
- 生活様式の見直し.....(60歳代男性)
- 県民全員がよくわかる具体的な説明をして広めてください。.....(70歳以上女性)

【伊賀地区 調査データ】

	男性	女性	合計
個人あるいは各家庭での省エネルギー行動	4	6	10
森林の保全	5	6	11
太陽光発電を各家庭が設置	1	0	1
各自治体の温暖化対策	2	1	3
燃料電池を各家庭に設置	0	0	0
学校あるいは社会での環境教育	4	4	8
3Rの取り組み	2	6	8
自動車をハイブリット車(電気自動車など)	0	1	1
原子力発電	1	0	1
住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策	1	0	1
企業が取り組む温暖化対策	6	6	12
家電を省エネ製品に買い替え	1	0	1
その他	1	1	2



- 個人あるいは各家庭での省エネルギー行動
- 森林の保全
- 太陽光発電を各家庭が設置
- 各自治体の温暖化対策
- 燃料電池を各家庭に設置
- 学校あるいは社会での環境教育
- 3Rの取り組み
- 自動車をハイブリット車に
- 原子力発電
- 住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策
- 企業が取り組む温暖化対策
- 家電を省エネ製品に買い替え
- その他

その他 記入詳細(伊賀地区)

- 現年度に比較する数値目標を設定すべきである。.....(50歳代男性)

- 公共の電波や雑誌等利用にもっともっと地球温暖化対策とはどういうことかどうしたらいいか等、解りやすく説明してゆく（呼びかける）……………(50歳代女性)

【分析】

北勢地方の温暖化対策について期待できることは、

ベスト1～3位

- (男性) 1位……………「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」  
 2位……………「企業が取り組む温暖化対策」  
 3位……………「学校あるいは社会での環境教育」  
 (女性) 1位……………「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」  
 2位～3位…「企業が取り組む温暖化対策」  
 ……「学校あるいは社会での環境教育」 (同数)

ワースト1～3位

- (男性) 1位……………「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」  
 2位～3位…「燃料電池を各家庭に設置」  
 ……「原子力発電」  
 (女性) 1位～2位…「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」  
 ……「原子力発電」  
 3位……………「燃料電池を各家庭に設置」

ベスト項目の内訳をみると、

「森林保全」を女性が掲げ、男性は「企業が取り組む温暖化対策」との違いがあるものの他については同じとなった。

「ワースト項目」の内訳をみると、

順位は違うものの、男性・女性共に同じ項目となった。

南勢地方の温暖化対策について期待できることは、

ベスト1位～3位

- (男性) 1位……………「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」  
 2位……………「太陽光発電を各家庭に設置」  
 3位……………「学校あるいは社会での環境教育」  
 (女性) 1位……………「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」  
 2位～3位…「森林の保全」  
 ……「学校あるいは社会での環境教育」 (同数)

ワースト1位～3位

- (男性) 1位～3位… 「燃料電池を各家庭に設置」  
… 「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」  
… 「家電を省エネ製品に買い替え」 (同数の0回答)
- (女性) 1位… 「原子力発電」  
2位～3位… 「燃料電池を各家庭に設置」  
… 「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」

ベスト項目の内訳をみると、

初めて出てきた項目として男性は、「太陽光発電を家庭で設置」を掲げ、女性は、北勢地方と同じく「森林保全」との違いがあるものの他については同じとなった。

「ワースト項目」の内訳をみると、

男性は、「燃料電池を各家庭に設置」は温暖化対策には現実的でないことを示した。

女性については、「原子力」を挙げたが、温暖化対策には利用したくない表れであることも判明した。

また、男性と同じく「燃料電池を各家庭に設置」を挙げている。

伊賀地方の「温暖化対策について期待できる」ことは、

ベスト1位～3位

- (男性) 1位… 「企業が取り組み温暖化対策」  
2位… 「森林の保全」  
3位… 「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」  
… 「学校あるいは社会での環境教育」 (同数)
- (女性) 1位～3位… 「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」  
… 「森林の保全」  
… 「3Rの取り組み」  
… 「企業が取り組む温暖化対策」 (同数)

ワースト1位～3位

- (男性) 1位～2位… 「燃料電池を各家庭に設置」 (同数の0回答)  
… 「自動車をハイブリット車(電気自動車)など」  
3位… 「太陽光発電を家庭で設置」  
… 「原子力発電」  
… 「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」  
… 「家電を省エネ製品に買い替え」 (同数回答)
- (女性) 1位～3位… 「太陽光発電を家庭で設置」  
… 「燃料電池を各家庭に設置」  
… 「原子力発電」

… 「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」

… 「家電を省エネ製品に買い替え」 (同数回答)

「ベスト項目」の内訳をみると、

男性・女性共に、「企業が取り組む温暖化対策」「森林保全」を挙げ、やはり「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」がいずれも重要であるとしている。

「ワースト項目」の内訳をみると、

男性・女性ともに「燃料電池を各家庭に設置」は温暖化対策には現実的でないことを示した。また、南勢地方がベスト2位に示した「太陽光発電を家庭に設置」は、伊賀地方は、男性・女性共にワースト項目に入ることとなった。

北勢地方・南勢地方・伊賀地方の全域で見ると、

温暖化対策として、「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」「企業が取り組む温暖化対策」「学校あるいは社会での環境教育」「森林の保全」「3Rの取組み」をベストに挙げ、みんなで行う「行動」を挙げている。

一方、具体的な、「太陽光発電を家庭で設置」「燃料電池を各家庭に設置」「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」「家電を省エネ製品に買い替え」などの個人での導入についての項目が全てワースト項目をしている。

また、既に電気の3分の1を使用している「原子力発電」についても低い数値を挙げており、温暖化対策の導入には掲げたくない傾向であることが分かる。「二酸化炭素を出さないクリーンな発電」「燃料でたくさんの電力がつかれる」「発電の値段がもっとも安い」「リサイクルにより燃料をくりかえし使うことが出来る」ということより「放射線による危険なもの」「廃棄物の処分」などの問題にもっとも県民として意識しているとも受け取れる。

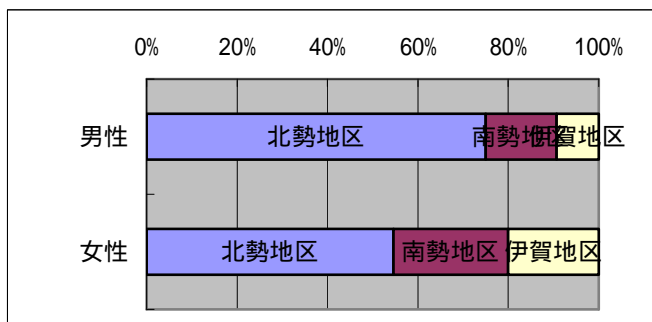
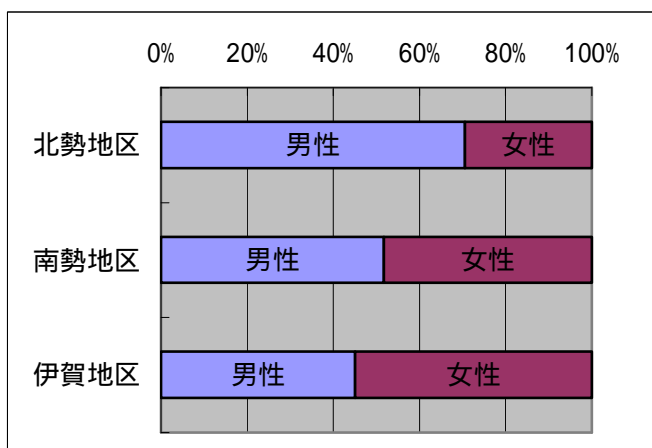
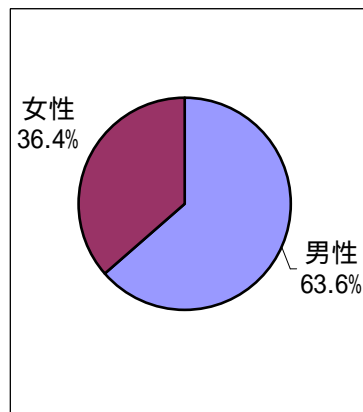
6. 最後にあなたご自身について、ご回答ください。

あなたのお住まいは

四日市市、鈴鹿市、亀山市、桑名市、いなべ市、菰野町、津市、伊勢市、志摩市、多気郡、伊賀市、名張市

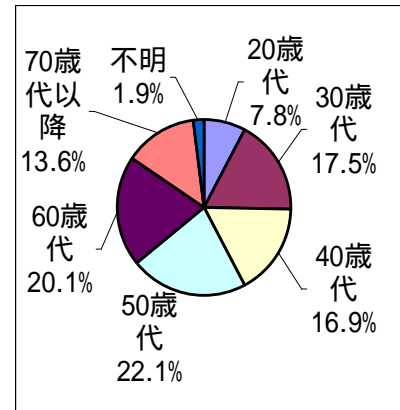
あなたの性別は？

	北勢地区	南勢地区	伊賀地区	合計
男性	72	15	9	96
女性	30	14	11	55
不明	3	0	0	3
合計	105	29	20	154



**あなたの年代は？**

	北勢地区	南勢地区	伊賀地区	合計
20歳代	9	2	1	12
30歳代	13	8	6	27
40歳代	17	6	3	26
50歳代	21	6	7	34
60歳代	24	4	3	31
70歳代以降	18	3	0	21
不明	3	0	0	3
合計	105	29	20	154



**あなたのご職業は？**

	北勢地区	南勢地区	伊賀地区	合計
無職	33	7	1	41
公務員	12	11	5	28
環境団体	3	0	2	5
会社員	25	2	6	33
その他	26	8	5	39
不明	6	1	1	8
合計	105	29	20	154

